

自然と文化科 活動記録 (龍田古道&亀の瀬)

日時	2024年5月3日(金) 10:00~15:00	担当者
場所	日本遺産「龍田古道&亀の瀬」 【行程】JR 三郷駅→龍田大社→峠八幡神社→亀の瀬(昼食)→地すべり歴史資料室見学→JR 河内堅上	文 : 小畑 孝二 写真: 上山 富美代
備考	参加者数 1班 14名 2班 17名 3班 17名 4班 15名	合計 63名

日本遺産「龍田古道&亀の瀬」を歩く！

高低差の少ない龍田古道や船を利用した人物の往来が多く、龍田の関が設置されていた。奈良盆地からいくつかの川が流れ込み大和川として一本に集約された。亀の瀬は、大阪と奈良を結ぶ交通の要所であった。この地は、数百万年前に「亀の瀬」の北には火山があり、最低2回は噴火したといわれています。万葉集では「畏(かしこ)の坂」、日本書記では「權坂(かしこのさか)」と表し、人々が地すべりの怖さを感じていたのではないかな。

○龍田大社 「風の神様」として古くから多くの方に親しまれている。

○廣瀬大社(水之神様を祀る) 佐保川や初瀬川、飛鳥川、曾我川など大和盆地を流れる全ての河川が一点に合流する地にあり、天武天皇は、風を司る龍田大社とこの廣瀬神社で風水を治め国家安泰を祈願した。

○万葉和歌 地すべりの恐怖と隣り合わせにありながらも、文物の往来によって発展を遂げた「龍田古道」。この地に関係する万葉歌は 30 首ほど詠まれている。

○関地蔵 竜田越奈良(大坂)街道の関地蔵尊の基礎石のひとつが道標になっています。道標には「日本四関其一 龍田関 地蔵尊 是より なら五里」と刻まれ、龍田関から奈良への(約 20km)の道のりを示している。

○龍王社 亀の瀬は剣先船の船着き場があった地で水運を利用していた。巨岩が露出しているため剣先船(河内側)は、一旦陸揚げし魚築船(大和側)に積みかえていた。葛城修験道第28番亀の尾宿でもある。



○亀の瀬地すべり歴史資料室見学

地すべりの範囲は、1 キロ四方であった。

【3回の大規模な地すべり】

1. 1903 年、2. 1931 年~1932 年、3. 1967 年

【3つの対策】

1. 排土(土をとる)、2. 排水(水をぬく)、3. 杭工(土を止める)

※現在も、「もう滑らせない！」を合言葉に大和平野や大阪都市部に大量の水が大阪都市部に流れ込まないように対策は継続中である。

○旧大阪鉄道亀瀬隧道

1892 年、大阪と奈良を結ぶ最初の鉄道として大阪鉄道が敷設した関西本線のトンネル開通。1931 年~1932 年の地すべりで崩壊したと思われていたが、2008 年 11 月、排水トンネルの工事中、約 80 年ぶりに偶然発見。約 60 メートルの区間が、奇跡的に崩壊を免れていた。

